

本市の教育について

佐藤 龍彦



〔質問〕本市の全国学力・学習状況調査の結果について伺う。

〔答弁〕【教育専門監】小学校および中学校の国語、算数・数学ともに全国には及ばなかったものの、ほぼ県平均並みの結果となった。

しかし、算数・数学については全国平均との乖離が見られ、課題となっている。

また、学習意欲や学習方法、生活面などを調査する学習状況調査の結果、平日において、1日3時間以上ゲームやスマホをしている児童・生徒が3割以上おり、全国と比較しても非常に多い状況である。

一方、平日の学校以外での学習時間を問う質問では、1時間以上学習する小学生の割合は6割を超えており、全国

の割合より高くなっているものの、中学生においては、2時間以上勉強している割合が全国と比べ、大きく下回っている実態が明らかとなった。

〔質問〕全国学力・学習状況調査の結果をどのように認識しているか伺う。

〔答弁〕【教育長】全国平均には及ばない結果ではあるが、学力は着実に伸びていると考えている。

一方、学習状況調査の結果によると、生活に関する課題は改善されていない。

ゲーム、スマホの使い

方、家庭学習の取り組み状況について大きく見直し、強化していく必要があると認識している。

〔質問〕全国学力・学習状況調査の結果を受け、今後どのように対応していく考えか伺う。

〔答弁〕【教育長】学力向上に関するPDCAサイクルに基づいた取り組みを着実に実施し、さらに、新学習指導要領が求める資質、能力を育成するための授業の在り方を学校と共に検討し、これからの時代に求められる力を育むための授業改善を図ってきたいと考えている。

加えて、児童・生徒の生活改善は急務であることから、PTAとの連携をより一層強め、保護者の皆さんと共にこの課題に積極的に取り組んでいきたいと考えている。

【その他の質問】

◎スパシミュランドについて

地域医療について

平間 知一



〔質問〕公設民営化議論の影響で、経営状況、医療提供体制は重点支援区域申請時の想定と大きく乖離している。

市長は刈田病院を守る責任があるとしているが、住民が必要とする病院の機能維持についての考えを伺う。

〔答弁〕【市長】刈田病院は1市2町の住民以外にも、地域医療連携プラットフォームに基づいた、仙南医療圏にとって必要不可欠な施設である。

現在も可能な限り救急の受け入れや新型コロナウイルス対策を行なっているが、そのような機能は今後も必要であると考えている。

〔質問〕みやぎ県南中核

病院との機能分担による連携は重要で、継続して進めていく姿勢であると理解している。

今後も刈田病院の診療科の維持を基本に、連携を進めるとの考えに変わりはないか伺う。

〔答弁〕【市長】人口減少、高齢化率の上昇が顕著となる中、広範囲に及び仙南医療圏の地域医療を守る観点から、みやぎ県南中核病院との連携は非常に重要である。

医師、医療従事者の配置状況を含め、現状の改善に向けて、県とも連携を図りながら地域医療の充実に努めていきたい。

〔質問〕刈田病院の医師確保に市が1千100万円の予算を計上し、コンサルタント会社に医師の紹介を依頼、福岡市に拠点を置く相生会から

医師4人が着任した。

派遣医師のうち2人は、刈田病院への支援体制調査のため短期滞在とし、直接診療には当たっていないとのことである。

滞在費については病院が負担することだが、その理由を伺う。

〔答弁〕【市長】紹介医師は、市から一部事務組合である刈田病院に連絡するものとし、採用や採用に当たった条件は一部事務組合で決定している。

〔質問〕地域医療構想に基づく重点支援区域の枠組みである、公設公営同士の病院の連携を否定していることにより、東北大学から来ている医師の離職が危惧されるが、見解を伺う。

〔答弁〕【市長】公設民営ありきではないが、公設公営と比較し、よりよい病院運営形態を検討する選択肢を増やすべきと考える。